

ワークショップの間、防災“も”まちづくり研究所の研究員として活動してきた参加者に、「名誉研究員」としての認定証書が贈られました。

「名誉研究員」とは、次、研究員になる人に、きちんと教えられる能力のある研究員、という意味で、この活動や、得た知識を伝えていってほしいという思いが込められています。

認定証書には、各自が作成した「宣誓書」も貼り付けられています。

名誉研究員に手渡された認定証書



授与の様子

参加者の感想（※感想カードより抜粋）



中学生

- これから実際に考えたことを実行していくので、どんな感じで行いたいのか、もっと改善していくべきことも含めて、これから考えて地域をより良いものにしていきたいと思えます。
- 最初は少しつまらないと思っていたけど、やっていくうちにどんどん楽しくなってきました。やる前とやった後では、防災への意識がものすごく変わりました。
- 地域のことについて、ここまでじっくり考え、さらにそれを実行に移すのはとても新鮮でした。これからも防災に対する関心を捨てずにいたいと思えます。
- 防災のことは全然興味がなく、あまり知らなかったけど、ワークショップをして防災のことについて考えて、防災への意識が高まったと思えます。なので、今後、ワークショップで学んだことを少しでも活かせるように頑張りたいと思えます。
- 普段、あーこんなところにこんな物があったら便利だろうな～と思う物や思う事を実際に地区の方や地域の方を通して行うことができ、私はすごく良かったと思えます。そしてこれからもこの「防災“も”まちづくり」をしていない人たちにも教えてあげたいと思えます。



自治会

- 中学生との交流、これからは沢山の方に参加できればいいな～と思えました。3回程度の関わりでしたが、これからも地域交流、参加しますので！ありがとうございました。

東京大学生産技術研究所 加藤先生のお話



▼ボトルのスキマを埋めよう！

ボトルの首は「すでに茅ヶ崎市で行われている防災まちづくり活動」を表しています。

この赤丸で示すように、実はそれぞれのボトルの間にはスキマがたくさんあります。

今後、このスキマを埋める新しい活動を、この地域の資源を活用して、楽しみながら、どんどん前に進めていきましょう！



自助（個人）・共助（地域）の視点から防災まちづくりについて考えてみませんか？

湘北地区「防災“も”まちづくりワークショップ」ニュース

Vol.4



▲これが「ゆるキャラ」だ！

さあ、「防災“も”まちづくり」を始めよう！

茅ヶ崎市では、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授のご協力のもと、平成21年度から「防災都市づくりワークショップ」（今年度から「防災“も”まちづくりワークショップ」に改称）を実施し、鶴が台中学校の生徒のみなさんをはじめ、地域のみなさんと一緒に災害に強い都市づくりを進めております。

今年度は、全4回のワークショップを実施してきました。

第4回目の今回は、研究室ごとに「イチオシ！企画」の具体的な実施内容を検討しました。また、「イチオシ！企画」以外の「防災“も”まちづくり」のアイデアも「アクションプログラム」にまとめました。

～第4回 湘北地区「防災“も”まちづくりワークショップ」で行ったこと～

◀はじめに▶

前回の振り返り

◀発表▶

検討結果の発表

◀グループワーク①▶

「イチオシ企画」のアクションプログラムをつくろう

◀加藤先生からの最終講演▶

◀グループワーク②▶

防災“も”まちづくりのアクションプログラムを考えよう！

◀閉会▶

宣誓書作成

「名誉研究員」認定証書の授与
閉会のあいさつ

■防災“も”まちづくりのワークショップを終えて…



香川自治会 沓澤会長

4回に渡り、皆様色々ありがとうございました。大人も生徒さんと一緒に考えて作り上げたワークショップを活かし、地元も学校の生徒さんを見守りながら、防災についても一緒に考えながらやっていきたいと思えます。今日の発表を聞いて、生徒さんの発想が素晴らしいなと感じました。若い人と力を合わせ、アイデアなどを共有して、これからもお互いに助け合っていけたらと思えます。

防災の時にも役立つように皆が仲良く出来る場所を作っていきます

ここで折角仲良くなれたので、地域の住民としては、皆が一緒になって色々な事が出来るような場所を確保していくのが課題かなと思っています。私はそういった場所づくりを頑張ります。

地域、中学生と一体となった活動を行います

実は私の子ども3人はこの鶴が台中学校の卒業生なのですが、私自身は今まで殆ど鶴が台中学校と関わりを持たない生活をしていました。今回、皆さんと一緒に活動をできたという事で、今後とも一緒に防災に対して活動をしていきたいと思えます。

消火器の色塗りのボランティアを、ポスターを使って中学校のみんなに呼びかけをします。
色を塗る消火器は、まち歩きをして、探します。
色の塗り方や移動式ホースの使い方は、消防署の方に教えてもらいたいです。



お山の公園の設備を使って、地域の人と中学生と一緒にカレーを作るイベントをやりまます。一緒に安否確認訓練やテント体験等もやりまます。
開催に向けて中学生がポスターを作って、宣伝します。



香川第二青少年広場で、防災について体験できるイベントを行います。
準備・調整においては、実行委員会を立ち上げて、地域の人と協力しながら、取り組んでいきたいと思ひます。



SC	何を	誰と				
		自分	家庭	中学校	地域	その他
まちづくり推進室①【消火器に色を塗りつつ、移動式ホースの使い方を訓練する】						
STEP 1	移動式ホース等の使い方を広める訓練の企画について話し合う					
	色あせた消火器の色塗り企画について話し合う					
	ポスターの作成（学校内でボランティアを募集）					
	ボランティアの人に校内で説明をする					
STEP 2	ポスター等で地域の人に呼び掛ける					
	消防署に相談し、訓練する場所を決める					
	消火器を塗るための道具を準備する					
STEP 3	色があせている等の気になる消火器を探す（まち歩きをする）					
	どの消火器の色を塗るか決めるため、地域から塗って欲しい消火器等の情報をもろう					
STEP 3	消火器を塗る					
	消防署の人に移動式ホースの訓練と消火器の色塗り等を手伝ってもらう					

地域福祉室①【キャンプ体験兼避難訓練の呼びかけのポスター】					
SC	何を	自分	家庭	中学校	その他
STEP 1	お山の公園について知らなかったのでキャンプ体験とゲームをやりながら伝える				
	キャンプ体験では、カレー食べ放題を開催するため、カレーの作り方を調べる・地域の人に教えてもらう				
	「災害時のためにテントを建てられるようになろう」体験を開催する				
STEP 2	中学生らしく明るく元気が伝わるポスターを作る				
	町の掲示板や各クラスにもポスターを貼る				
STEP 3	地域の人に食材を分けてもらう				
	皆でテントを建てる				
	安否確認訓練をする				
	地域の方と一緒にカレー作りをする				

防災対策室①【ドリーム防災～BOUSAI】					
SC	何を	自分	家庭	中学校	その他
STEP 1	企画ミーティングの実施				
STEP 2	企画実行委員会を設立				
	地域の人と日程相談をする				
	広場の使用許可をもらう				
	防災対策をする（消火器等を借りる）				
STEP 3	チラシ、回覧板、掲示板等で呼びかける				
STEP 4	イベントの実施 場所：香川第二青少年広場 内容：保存食を食べる/防災についてクイズ大会/ 消火器的当て/けむり体験 等				

SC	何を	誰と				
		自分	家庭	中学校	地域	その他
まちづくり推進室②【防災地図作り】						
STEP 1	危険な場所をまわる					
	避難場所からの安全なルートを探す					
	防災セットについて調べる（インターネットなど）					
	部活で防災について調査して、授業で地図作りを実施する					
STEP 2	地図を作る					
	美術部の協力で防災セットのチラシを作る					
STEP 3	新聞と回覧板でチラシと地図を配布する					
	自治会役員の人以外にも個別訪問して防災について伝える					
	学校や地域の掲示板でチラシと地図を配る					

地域福祉室②【おじいちゃん和将棋する、ボランティア（話し相手、買物）】					
SC	何を	自分	家庭	中学校	その他
STEP 1	将棋大会とボランティアのポスターを作る				
STEP 2	防災につなげる安否確認する				
	高齢者の話し相手、買物のお手伝いのボランティアをする				
	団地の掲示板にポスターを貼る				
STEP 3	後輩にボランティアを引き継ぐ				
	部活の連絡網をつくり、活用する				
	おじいちゃんと名店街で将棋をする				
	今日「名店街を借りたい」と大人にお願いする				
	将棋大会ではお茶と、卓球部が作ったお菓子を出す				
	名店街の掲示板にイベントのポスターを貼る				

防災対策室②【鶴が台の防災ゆるキャラ】					
SC	何を	自分	家庭	中学校	その他
STEP 1	ゆるキャラの絵と名称を募集する				
	中学生にデザインを募集するためのチラシポスターを作成する				
	地域でゆるキャラデザインを考える				
STEP 2	デザイン決定 ※中学校でデザインを絞り込み、小学生が最終決定				
STEP 3	宣伝、広報、イベントでゆるキャラを発表				
	青少年育成の集いでイベントをする（団地の良さ等をアピール）				
	宣伝する				

まず、地図を作るために、地域の危険な場所や、避難ルート等を確認します。防災セットについても調べます。
地図は、美術部に協力してもらって作成し、新聞、回覧板、中学校などで配布します。



ボランティアで高齢者の話し相手や買い物のお手伝いをしたいです。
また、夏休みには、お爺ちゃんと名店街で将棋をして交流を深めたいです。参加者を集めるために、ポスターを作ります。



親子で防災について意識を高めていけるように、イベント等で使える「ゆるキャラ」を作ります。
中学生がデザインして、小学生に選んでもらいます。
できたら、新聞やイベントで宣伝して、活用していきます。



■「イチオシ企画！」以外のアイデアによる防災“も”まちづくり

第3回WSにて、出された全てのアイデアについて、「どのように」「誰と」取り組むか話し合いました。

まちづくり推進室				誰と				
	何を	どのように	自分	家庭	中学校	地域	その他	
1班	火災が起きた時の恐ろしさを教えて備える	・ボランティアで集まってポスターを作成する	○		○	○		
	移動式ホース格納箱を増やす	・自治会に増やしてもらえるようお願いする				○		
	災害時にガレキなどを撤去出来る機械（小さい車）をつくる	・自治会や企業に相談する				○	企業	
	道路を広くする	・自治会をお願いする				○		
2班	感震ブレーカーで火災を防ぐ	・防災地図に入れる ・市の補助金を使う ・チラシを回覧板でまわす	○	○	○	○	○	
	家具を固定してもらう	〃						
	耐震補強を実施してもらう	〃						
	防災訓練に参加してもらう	防災訓練の内容を充実させる（VR等）	○				○	
	避難場所への行き方を知る	避難訓練を実施	○	○				
		隣りの人と普段から話をする	○	○		○		

地域福祉室				誰と				
	何を	どのように	自分	家庭	中学校	地域	その他	
1班	消火器を目立たせる	・消火器の場所を地図で分かるようにする ・防災アプリで消火器の位置を分かるようにする				○	○	
	地域の人と顔見知りになる	・通りすがりの人にもしつかり挨拶をするように意識する ・あいさつの呼びかけ	○		○	○		
	ボランティアで困っている人の相談にのる	—	○			○		
	おこづかいを減らして消火器を買う	・親に頼む	○	○				
	ベンチ（座れる場所）を増やす	・中学生が木で手作りベンチを作る	○		○			
	店を作る	・名店街に駄菓子屋を作る	○					
	公園を増やす	・市に頼む					市	
	道路を整備する	〃					市	
2班	中学生・小学生が遊べる場所を作る	〃					市	
	防災訓練 家具の転倒防止 耐震改修 感震ブレーカー	・中学生世代が見る派手なポスターを作り、貼る（卓球部、将棋部でポスター作り、香川の掲示板に貼る）			○		香川	
	お山の公園の防災設備を知ってもらう	・かまどベンチで中学生がカレーを作る（小学校高学年～中学生に呼び掛ける）			○		団地	
	ボランティア団体を知ってもらう	・ポスターを作る ・将棋部が名店街でお爺ちゃんと将棋大会をする ・中学生がボランティアで話し相手、買物の手伝いをする	○				○	
	消火器を目立たせる	・消火器マップを作る（通学路等） ・消火器を中学生が目立つ色に塗る ・生徒会に提案して新しいボランティアを作る					生徒会	
家の周囲で避難できる場所を探す		○						
車椅子が通りにくい道をまっすぐにする	・市をお願いする						市	

防災対策室		どのように	誰と				
何を			自分	家庭	中学校	地域	その他
1班	街灯をつけてもらう	・暗い所を調査する ・地域に要望を出す	○			○	○
	防災設備の場所を知らせるポスターを道に貼る	—	○		○		○
	公衆電話の練習	・学校探検	○		○		○
	ブロック塀を生垣に変えていく！	・ブロック塀の家は取れそうな所がないか点検してもらう	○			○	
	道がせまい（香川、甘沼）	—					
2班	防災について知ってもらい、防災意識を高める	・鶴が台のゆるキャラをつくる ・分かりやすい広報 ・設備の使い方を訓練参加等で簡単に知れるようにする ・鶴が台団地のような画期的な防災設備の導入 ・中学生役員を決めて鍵を管理する					
	ブロック塀を減らす	・ブロック塀の持ち主に危険性を教えて、やめてもらう					
	道路を広くする	・すぐ広くできないのでマナーに気をつけて歩く					
	地域を知る	・分からないことを地域の人に質問する ・質問箱をつくる					
	明るく、環境にもやさしい道路をつくる	・道路にLEDをつける					

地域協働推進室 地域協働推進室（大人班）は、各班の「イチオシ企画！」を持ち寄り、地域としてどのように取り組んでいくかを話しました。

	何を	どのように	誰と				
			自分	家庭	中学校	地域	その他
防災①	【公園を使つてのイベント】 夏祭りで/水の消火器で的当て/けむり体験/ 実行委員を作って4月から活動/ポスターで周知、募集	会議で必要なものを話し合う 子ども達と地域の方と					
防災②	【ゆるキャラ募集】⇒ポスターで周知 (中学生が作り、小学生が選ぶ)	実行委員会を作り、地域も積極的に参加していく 中学生に働きかけやすくなる					
まち①	【消火栓ボックスの色塗りをする】 移動式格納箱の訓練も同時に行いたい	地域の子どもも一緒に（費用は市が負担）					
まち②	【防災マップ作り】 (避難場所、防災、危険な場所を載せる)ポスター等で周知。裏面に防災に関する情報を載せる	地域、中学生が声掛け 顔が分かる仲に	○	○	○	○	○市
福祉①	【防災訓練、キャンプ体験】 (テントを張り団地を使ってキャンプ、カレーをふるまう) 企画、ポスターで周知、1学期の終業式の日キャンプ	地域から要望を出していきたい					
福祉②	【買物のお手伝い、お爺ちゃんと将棋大会】 (団地に募集ポスターを貼りたい) 中学生の参加を促進	【防災訓練の中身】 ・実際に災害を想定した訓練に ・一般の人の参加者を増やしていく					
課題	防災に対する意識が地域毎に異なる	代表部長					
	地域での防災やお祭りに積極的に参加する方が少ない						